

塘路・茅沼地域における取り組み

～ 水生植物を用いた水質浄化実験について ～

1 . 目 的

釧路湿原に生育している水生植物を用いて、温泉排水の水質浄化実験を実施し、野外での応用の可能性を検討する。

事業は地元の環境共生型ベンチャー企業に委託。標茶高校の協力を得て実施することを通じ、環境教育上の効果も期待できる。

2 . 平成14年度事業の概要

(1) 標茶町茅沼地区

- 実験場所： 標茶町茅沼地区より温泉排水を採取し、標茶高校ビニールハウス内で実施。(平成14年12月～)
- 実験内容： ヨシ、エンコウソウなど4種類の実験用植物を植栽したネット(網状構造体)を排水槽に浮かせ、定期的にpH、BOD、CODなど7項目の水質を測定。
- 実験結果： 実験期間が3ヶ月弱と短く、また植物の生育状況が悪かったことから、浄化機能の確認までには至らなかった。

(2) 標茶町塘路地区

- 調査内容： 標茶町塘路地区において、生活雑排水を7～8箇所で採取し、水質を測定。温泉排水と同様の処理が可能かどうかを検討。
- 調査結果： 冬期のみ水質測定では不十分なのでさらに年間を通じた調査が必要。

3 . 平成15年度事業の概要

昨年度に引き続き、湿原に生育する植物を用いて温泉排水及び生活雑排水の水質浄化実験を実施する。

(1) 標茶町茅沼地区

ビニールハウス内での実験に加え、温泉排水放流池周辺のヨシの成分分析(窒素、リン酸、カリ、塩分濃度)を行い、温泉排水によるヨシ生育への影響を調査する。

(2) 標茶町塘路地区

生活雑排水を採取し、ビニールハウス内で水質浄化実験を実施するとともに、排水路での定期的な水質測定を行う。